

たんけん
おもしろ探険に出かけるみなさまへ

むかし、人は自然の中で生活をしていました。しかし時代が進むとともに、自然から離れ、人が生活しやすい環境を造ってきました。その結果、多くの自然が失われ、環境の悪化が問題となっています。この「おもしろ探険」で、自然のおもしろさや不思議に出会い、自然との距離を近づけてもらえると幸いです。

生き物の世界にお邪魔するときは、正しい知識も必要です

マムシ



特徴 ▶ 太くて短いヘビ
▶ 体の両側に黒みがかった銭形模様
▶ かまれると命にかかわる

対応 ▶ 素足・サンダルなどで歩かない
▶ 不用意に草むらに入らない
▶ 見つけても刺激しない

ヤマカガシ



特徴 ▶ 全体に黒っぽく、首筋は黄色
▶ 黒い斑点と赤い模様が目立つ
▶ 奥歯・首筋から毒液を出す
▶ 深くかまれると命にかかわる

対応 ▶ 素足・サンダルなどで歩かない
▶ 不用意に草むらに入らない
▶ 見つけても刺激しない

ハゼノキ・ヤマウルシ・ヌルデ



特徴 ▶ 「まけの木」とも呼ばれる
▶ 植物体すべてが毒をもつが、特に樹液に注意

対応 ▶ ふれただけで皮膚に炎症を起こすこともあるので、さわらない

ケムシ



特徴 ▶ ドクガ・マツカレハなどの幼虫は、毛に毒がある

対応 ▶ 体や衣服についても、素手でつかんだりはったりしない
▶ 毒のある毛がついた時、こすったりかいたりしない
(毛は、セロハンテープをあてて取り除くか、そっと洗い流すのがよい)

スズメバチ



特徴 ▶ 攻撃性、毒性とも強い
▶ さされると命にかかわる
▶ 秋に被害が多い

対応 ▶ 飛んでいるハチを手ではったり、つかまえようとしたりしない
▶ 巣に近づいたり、刺激したりしない

マダニ



特徴 ▶ 0.3~1cmの大きさ
▶ かまれると命にかかわることがある
▶ かまれた時、無理に引き抜くとちぎれて、口の一部が皮膚に残る

対応 ▶ 素肌を出さない
▶ 虫除けスプレーを使い、皮膚につかないようにする
(万が一、かまれていた場合は、無理に取らずに病院で処置をしてもらい、その後も発熱がないか2~3日は注意が必要)

五色台少年自然センター

おもしろ探険BOOK



自然を見て

触れて

体いっぱいを感じよう!



- ◎ 野外を歩くときの服装を整えよう
長そで、長ズボン、歩きやすい靴、帽子など
- ◎ 周囲の動植物に気をはらおう
見つけても、さわったり、つかまえたり、刺激をあたえたりしない

おもしろ探険 地図



イノシシの形の板に番号が書いてあるよ。

竹



竹は種類にもよるが、60年から120年の周期で花を咲かせ、枯れる。竹林の多くの竹は地下茎でつながっているため、一斉に花が咲き竹林ごと枯れてしまう。成長のスピードも速く、芽が出てから約3ヶ月で親竹と同じ高さになる。

ナワシログミ



春に赤い実ができ、食べることができる。4～5月(ナワシロを作る時期)に実をつけることが名前の由来。高さ1～2mほどの低木で、葉の裏は鱗毛と呼ばれる無数の毛に覆われており、白っぽく見える。

ヤマナラシ



葉の特徴の一つは葉柄が長いこと。わずかな風でも葉っぱ同士が擦れ合っすて、サラサラと音が鳴ることが名前の由来。

ヤブニッケイ ※ 葉を折ってにおいをかいでみよう。



葉をよく見ると、付け根のところで太い葉脈が3つに分かれている(三行脈さんこうみやく)。このような植物は、独特なおいがある。このにおいの成分はカンファー(樟腦しょうのう)と呼ばれ、防虫効果がある。葉には、葉脈上に点々と虫こぶができることが多い。

日時計



太陽の光によってできた影で、時刻を知ることができる時計。季節によってずれがあるため、補正表で計算します。

クスノキ ※ 葉を折ってにおいをかいでみよう。



葉をよく見ると、付け根のところで太い葉脈が3つに分かれている(三行脈さんこうみやく)。このような植物は、独特なおいがある。このにおいの成分はカンファー(樟腦しょうのう)と呼ばれ、防虫効果がある。日本では古くから、クスノキの葉をタンスに入れたり、燃やしたりして虫除けに使っていた。

ヤマモモ



高知県の県の花であり、徳島県の県の木でもある。葉は長細い楕円形をしていて、6月頃には紅紫色の果実をつける。果実は、生でも食べることができ、甘酸っぱい。

ヒサカキ



葉は、鋸歯(ギザギザ)があり、楕円形で先端がとがっている。サカキの代用品として、神棚に供えられることがある。

葉をストローのように巻いて吹くと、ピーピーと笛のように音を鳴らすことができる。

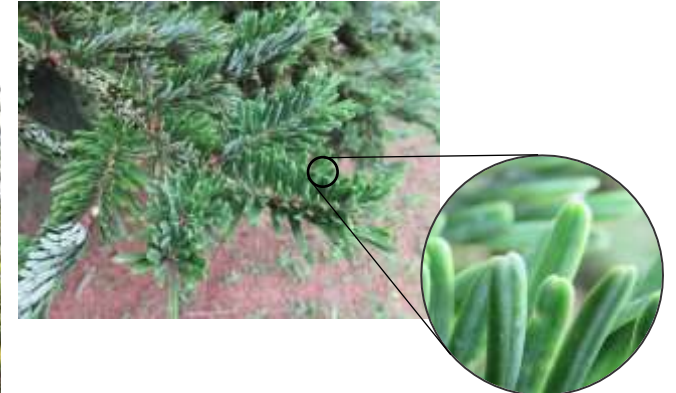


ダンコウバイ ※ 葉をちぎってにおいをかいでみよう。



葉はチューリップの花に似ている。大きさ 10cmくらいで、裏側には毛が多い。葉をよく見ると、付け根のところで太い葉脈が3つに分かれている(三行脈)。葉や枝を折ると香りがあり、枝が楊枝の材料になることで知られている。

モミ



クリスマスツリーを連想させる、円錐形の大木。本州から九州(屋久島)に分布する、高さ 25mほどの常緑針葉樹。葉をよく見ると、先端には浅い切れ込みがある。

アベマキ ※ 樹皮を指で強く押してみよう。



葉はクヌギに似ているが、葉の裏側に毛があり、クヌギよりも白っぽく見える。樹皮はゴツゴツしていてコルク層がよく発達しており、指で強く押すとやわらかさが分かる。

イチヨウ



秋の黄葉と、「銀杏」と呼ばれる種子でおなじみの落葉樹。葉の先が成長するため、葉の根元よりも先がどんどん大きく広がり、扇のような独特の形をしている。

クヌギ



葉をよく見ると、ギザギザとした葉の先に針のようなトゲがある。樹皮はゴツゴツしており、触った感じも硬い。樹皮が傷つくと、そこからにじみ出る樹液にカブトムシやクワガタが集まる。

ホンザンショウ ※ 葉のにおいをかいでみよう。



葉から良い香りがするこの植物は、古くから代表的な香辛料として栽培されている。葉に鋸歯(ギザギザ)があり、その間に透明な腺点(油点)がある。それを揉めばさらに強い香りがする。枝には鋭い棘があり、果実は酸っぱく、食べると舌がしびれる感覚になる。(ミカン科のアレルギー物質を含んでいる)

ガマズミ



葉の大きさは6~14cmで、卵のような形または円形をしていて、葉の縁には粗い鋸歯(ギザギザ)がある。

花期は5~6月で小さな白い花をたくさん咲かせ、独特の香りをもつ。6~11月には甘酸っぱい楕円形の赤い実が熟す。

オオバコ



道端などによく生える野草で、地面から葉を放射状に出し、真ん中から花穂をつけた茎が数本立つ。

花柄を根元から取り、2つ折りにして2人が互いに引っかけて引っ張り合い、どちらが切れないかを競う「オオバコ相撲」もできる。

アメリカフウ



高さ15~25mほどの落葉樹。葉は5~7つに裂けていて、ふちには細かい鋸歯(ギザギザ)があり、モミジの葉に似ている。春には新緑が、秋には紅葉がとても美しい。

マテバシイ



高さ15mほどの常緑樹。葉は長さ5~20cmで、枝先から生えることが多い。秋には長さ1.5~2.5cmの細長いドングリができる。2年型のドングリで、小さいまま冬を越し、2年目の6月末ごろに帽子から顔を出して大きくなり、秋には生で食べることができる。